

日本共産党杉並区議会議員

くすやま美紀(樟山みき)活動報告

2018. 5. 9 NO. 221

連絡先 荻窪5-15-19-704 電話・FAX 5932-6170

区議会控室 3312-2111(内)2319



6月24日 杉並区長選挙 区議補欠選挙 ゆがんだ区政を正し 区民の声がいきる区政へ



三浦ゆうや氏の略歴

1983年京都府生(34歳)
中央大学法学部卒、明治大学法科大学院修了。2011年弁護士登録。
杉並総合法律事務所所属。自由法曹団、日本労働弁護団等所属。

三浦ゆうやさんとともに区政を変えよう

6月17日告示・24日投票の杉並区長選挙まで、1か月余と迫りました。

田中区政は、区民の声を聞かず、区立施設の廃止・削減を強行。くらしの問題でも、国保料や介護保険料をはじめ、区立施設使用料や保育料を値上げし、区民に負担増を押し付けてきました。そのうえ、公用車の私的使用や、区の補助金を受け取っている団体の関係者を発起人や呼びかけ対象にして政治資金パーティーを毎年開催するなど、区政を私物化し、歪めてきました。

「こんなひどい区政を何としても変えたい」という区民の声がかつてなく広がっており、今度の区長選挙は、区政を変える絶好のチャンスです。

こうしたなか、「みんなであつながる『住民自治のまち すぎなみ』の会」は、弁護士の三浦ゆうや氏(無所属)の擁立を発表しました。

三浦さんは、高円寺小中一貫校建設をめぐるスラップ裁判や不当解雇事件など、困難に直面した方々の救済に全力をあげてきた人権弁護士です。「憲法を尊重し、クリーンで区民の声をいかに杉並区政に変えたい」との訴えに、区民から多くの期待の声寄せられています。

日本共産党は、三浦ゆうやさんを支持し、ゆがんだ区政から、区民の声を大切にし、くらしを守る区政に転換させるため、奮闘します。

区政を厳しくチェックする 日本共産党に新しい力を!



区議会議員補欠選挙には、野垣あきこ予定候補が挑戦します。

区議会では、自民、公明はもとより、国政では多くの課題で共闘している立憲民主や民進、社民の議員までもが区長に追随し、悪政の片棒を担いでいます。日本共産党は、区長の横暴に反対するだけでなく、区民負担の軽減や、認可保育園、特養ホーム増設など区民の願い実現に粘り強く取り組んできました。

区政を厳しくチェックする日本共産党の議席を増やすため、全力をあげます。

お困りごと、ご相談は、上記連絡先まで、お気軽にお電話ください

田中区長の行動日程を毎日廃棄？！

日本共産党区議団の追及で明らかに

国政では公文書の改ざんや隠ぺいが問題となつていますが、杉並区でも、区長の行動日程が公文書として取り扱われないうまま毎日廃棄されるなど、異常な実態となつていることがあきらかとなりました。

区長の行動日程は住民に開示出来ないのか？

区議会予算特別委員会の公用車に関する質疑で、区長の過去の行動日程を確認したところ、「区長の行動日程は毎日廃棄している。区ホームページに掲載しているもの以外は把握できない」旨を秘書課長が答弁しました。

区ホームページに掲載されている区長行動日程は限定的なもので、区長公用車の運行記録などが示されていないケースが多数です。

党区議団は区長の行動日程の実態を調査すべく行動記録に関する資料の情報公開請求を行いました。公

開延期の取り扱いとなり、現時点においても情報が明らかにされていません。

自治体の首長の行動を区民や議会が把握出来ないことは問題です。

住民参画と知る権利の保障を

杉並区自治基本条例では、区民の区政への参画と情報を知る権利等を保障することが明確に示されています。区自ら「情報公開制度とは、

情報の公開を求める権利を皆さんに保障し、区に情報の公開を義務づける制度です。区が管理する情報については、どなたでも閲覧・視聴（無料）・写しの交付（有料）を請求でき、原則※公開します。」（※個人情報等の一部を公開しない場合がある）としています。

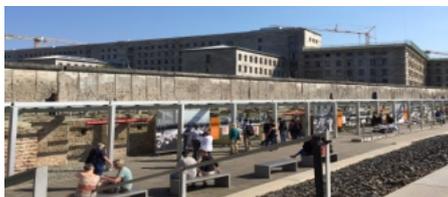
区長の行動日程を毎日廃棄する異常な管理手法を直ちに是正し、公文書として情報公開すべきです。

ドイツを旅して 2度目のベルリン

4月後半、ドイツ・ベルリンに行きました。

テロのトポグラフィ 旅の目的の一つは、ナチスによる600万人ものユダヤ人虐殺という、とてつもない負の歴史を背負ったドイツが、どう過去に向き合っているのか、実際にみてみることに。

前回の旅では、ザクセンハウゼン強制収容所やホロコースト記念碑などを訪れたが、今回最初に向かったのは、ホロコーストの中央司令部跡地に建てられた「テロのトポグラフィ」。ユダヤ人だけでなく、障がい者、同性愛者、社会主義者、共産主義者らの虐殺に関する数多くのパネル写真が展示されている。残虐性を極めたナチスの蛮行。加害者として自分の過ちをさらけ出すことは簡単ではないと思うが、過去を忘れないために、こうした努力を続けているドイツの姿勢には感心させられる。人間の狂気や残虐性について考えさせられると同時に、過ちを克服していく力を人は持っていると感じました。



展示館前に残るベルリンの壁

グルーネヴァルド駅 ベルリン郊外にあるグルーネヴァルド駅。ここから5万5千人ものユダヤ人が強制収容所に送られて行きました。



1942年10月28日 100人のユダヤ人がテレジエンシュタットに移送されたことを記録するホーム鉄板

廃線になったホームには、強制収容所行き列車が出た日付、ユダヤ人の数、アウシュビッツやテレジエンシュタット（チェコ）、リガ（ラトビア）など収容所の地名が記されていて、思わず胸が締め付けられました。

ケーテ・コルビッツ美術館 ケーテ・コルビッツ（1867～1945）は、

ドイツを代表する版画家・彫刻家。第一次大戦で、国のために戦いたいという息子の情熱に負けて戦地へ送り出すも、息子は出征後3週間で戦死。ケーテは罪の意識にさいなまれながら、またナチスの迫害を受けながらも、戦争の残酷さを告発し続ける作品を制作。力強い作品にどれも感動！小さいですが、市民によって作られた素晴らしい美術館です。



美術館は19世紀の建物